

平成26年度事業報告・収支計算書

特定非営利活動法人 アクション

海外事業

ジャイラホーム支援事業

実施場所：サンバレス州カステリヤホス行政区マグサイサイ町

実施期間：平成26年1月～同年12月

ジャイラホームはフィリピンのNGOによって設立され、孤児、虐待、育児放棄、貧困など様々な背景によって、親元を離れた子どもたちが生活する児童養護施設です。当団体設立時の1994年から継続して支援を実施しています。子どもたちの生活環境の向上を目的とする本件では、本年度は下記3つの活動を実施しました。

●児童養護施設の自立的運営に向けた農業支援

本事業はジャイラホーム内の空地进行を菜園として開発することで、無農薬栽培による子ども達への安全な食の提供、収穫物の販売による同施設の自給自足体制の確立を目的としたもので、今年度で8年目となりました。今年の上旬に畑に必要な不可欠なカラバウという畑を耕す水牛が老衰し、畑を耕す道具がなくなってしまったと同時に、畑を耕す道具が無いという不便さで、農業スタッフのモチベーションも下がり、8月にスタッフは退職しました。それと共に、農業プロジェクトの本来の目的や7年間の成果を再度見直し、農業プロジェクトを一旦中止する事となりました。現在畑にある野菜は、ハウスペアレンツが管理し、子ども達も当番制で朝夕お世話をしています。収穫した野菜は子ども達に提供され、近所で売り歩いた際の収入は生活用品などの購入費用に充てています。また、心理カウンセラー担当の当団体スタッフが実施しているケアプログラムの元、来年1月から野菜栽培について学ぶというアクティビティーを実施する予定です。



3月：ジャイラホームワークキャンプ参加者農作業



9月：ハウスペアレンツが世話している畑

●朝食改善プログラム

本事業はYELL様から頂いた資金を元に、2014年6月9日よりジャイラホームの朝食を改善すべく実施しています。子ども達の健康状態の変化については、毎月末に個々の身長・体重を測定し、算出したBMI値の推移を記録しています。

プログラム開始以前の朝食は、ご飯とおかず1品のみの質素なものであり、十分にバランスの取れた食事が提供できていないという状況でした。プログラム開始後から、朝食には野菜や果物が盛り込まれ、栄養価の高いバランスが取れた食事へと大きく改善されました。子ども達は朝食をしっかりと取り、元気に学校に登校することができています。

12月8日現在、プログラムは6ヶ月目に入りましたが、BMI値が標準値以下であるマリセル・グライデル・ジェシカ・メイベリン・ダニエル・ロバート・グレンの7名はプログラム開始以来、今月が最も標準に近い数値に達するという良い結果が見られました。BMI値が極端に低い子どもにつきましては、モニタリングをしている限り朝食を含めごはんは毎食十分に食べている様子ですが、太りづらい体質ということが原因であると考えられます。特に健康状態に異常は見られません。また、12月1日をもってショーンが家族の元へ帰ることになり、彼についてのモニタリングは11月末で終了致しました。同時に、12月1日より彼の分を差し引いた予算を毎週ハウスペアレントに支給しています。



朝食改善プログラムで提供されている朝食

●パキュット基金

ジャイラホームは資金不足が深刻であり、スタッフの給料未払いが頻発しています。それによりスタッフが継続して働けないという事は、こどもたちの親代わりである「ハウスペアレント」が頻繁に入れ替わるということを含み、こども達の生活面にも精神面にも悪影響を及ぼし、こども達が健全に成長できる環境を提供するという児童養護施設の目的を果たすことが難しくなります。そこで、本件では昨年度に引き続き、給料の支援することでスタッフを支え、こども達が健全に成長できる環境を維持するという目的で給与支援を実施しました。昨年度に引き続きアクション年会費に統合する形をと

り、こども達の世話をするハウスペアレント4名とソーシャルワーカー1名、アドミニストレーションスタッフ1名の計5名のスタッフの給与半月分を支援しました。

<支援対象>

1～12月：ハウスペアレント4名、ソーシャルワーカー1名、アドミニストレーションスタッフ1名

<支援金額>

1～12月：P33,894

(ハウスペアレント4名、ソーシャルワーカー1名、アドミニストレーションスタッフ1名)

盲ろう学校(ニニョスパグアセンター)自立支援事業

実施場所：サンバレス州オロンガポ市オールドカバラン町

実施期間：平成26年1月～同年12月

ニニョスパグアセンター（以下センター）は、フィリピンのNGOによって運営されている、主に盲・聾啞者を対象とした自立支援施設です。当団体では1998年より活動の支援を行っています。本年度は前年度までに引き続き、内反足患者に対する医療事業支援、センター内に暮らすこども達および奨学生のこども1名に対する教育支援、2名のスタッフへの給与支援を実施しました。

●医療事業支援

センターでは、口唇口蓋裂・ヘルニア・水頭症・内反足など、体に障がいを持つこども達のためにスポンサーを募り、治療や手術の支援を提供しています。当団体では、昨年度に引き続きセンターで生活している先天性内反足のこども1名の治療支援を実施し、定期検診にかかる病院までの交通費や食費などの支援を行いました。今年度も半年に1度定期検診に通い、マニラにある病院で専門の先生による診察がありました。定期検診ではいずれも両足の経過に問題はないとの診断を受け、来年度もセンターおよび当団体スタッフによるモニタリングの元、矯正器具を着用しての治療および半年に1回の定期検診を受診する予定です。



定期検診を受ける様子

●奨学生の学費及び学用品支援

前年度に引き続き、センターの患者である聾啞のこども1名に対し、学費・学用品及び交通費の支援を行いました。本生徒は平成24年度から公立の小学校へ通っており、今年度は3年生に進学しました。毎日休まず学校へ通い、友達と一緒に勉強したり、遊んだりしています。また、学校行事へも積極的に参加しています。来年度も本生徒への奨学支援を継続して実施する予定です。



奨学生と担任の先生（3月の修了式にて）

●こどもの学用品及び交通費支援

本年度は、センターから公立の学校に通うこども13名・センターで勉強しているこども4名の計17名に対して学用品・制服および交通費の支援を実施しました。運営資金が不足しているセンターでは、こども達の教育にかかる予算を捻出することが難しく、新学期に学用品や制服が揃わない、交通費がないためにこども達が学校を休んでしまうということがありました。当団体からの支援により、今年度はこども達が毎日休まず学校へ通い、学校で友達と一緒に勉強したり、学校行事に参加したりすることが出来ました。

来年度もこども達やセンターのニーズに合わせて教育面での支援を継続して実施していく予定です。



新しい制服を受け取ったこども達

●スタッフへの給与支援

前年度に引き続き、センターでこども達の教育を担当するスタッフ2名に対する給与支援を実施しました。当団体ではスタッフ2名に月の半額分の給与を支援しています。昨年度同様、フルタイム勤務のスタッフ1名へ3,000ペソ、パートタイムのスタッフ1名へ2,000

ペソを支援しました。本支援は来年度5月まで実施する予定です。

●バースデーカードの配布

当会では2010年9月より、センターで暮らすこども達全員に対してバースデーカードの配布を実施しています。誕生日の日もいつもと変わらず生活をするこども達に少しでも特別な時間をプレゼントするため、当団体では過去のキャンプ参加者に協力してもらい、バースデーカードを作成し、こども達の誕生日や前後の日に配布しています。今年度は6名のこども達にカードを贈り、センターのスタッフやこども達とともに誕生日をお祝いしました。



施設のスタッフとこども達

児童養護施設のこども達に対する心理ケア事業

実施場所：サンバレス州カステリヤホス町及びオロンガポ市オールドカバラン町

実施期間：平成26年1月～同年12月

当会では、児童養護施設のこども達が精神的に安定した生活を営むことができるよう、2012年よりこども達に対する心理ケア事業を実施しています。心理学を専門に学んだ現地スタッフがこども達のためのアクティビティを考え、施設のスタッフとともに活動を行なっています。今年度は下記の内容の活動を実施しました。

●こども達の心理ケアプログラム

今年度は日本国際協カシステム様から助成金をいた

だき、当団体の担当スタッフと施設側の担当であるソーシャルワーカーの能力強化及びこども達へのプログラム内容の充実をはかりました。

対象となった施設のジャイラホームとニニョスバグアサセンターを担当するソーシャルワーカーと当団体スタッフは2月～7月にコミュニケーション力、感情コントロール術、課題解決・意思決定力、トレーニングマネジメントなどをテーマにした研修に参加し、プログラムの開発及び実施にあたり必要となる知識やスキルを習得しました。各スタッフはプログラム実施にあたり、当該研修で学んだ内容を実践しています。

また、施設の子ども達が抱えるニーズを正確に把握するため、子ども達やハウスペアレントに対してグループディスカッションやインタビューを実施したほか、子ども達の家庭への訪問等を通じてニーズ調査を行ないました。本調査で得た結果を踏まえてプログラムの内容を改訂し、現在子ども達が抱える問題や課題にそった内容のプログラムが完成しました。プログラムの中で行なう活動はワークショップやセミナー形式のものから芸術系のアクティビティ、グループ活動、施設外活動、子ども達と1対1で対話するカウンセリング形式など、様々な手法を用いて実施していきます。

10月より各施設にてプログラムを開始しており、来年度も引き続き、本プログラムを活用して子ども達に対する心理ケアを実施していく予定です。



ディスカッション中の施設スタッフと子ども達



スタッフからレクチャーを受ける子ども達



タイヤを使ったアートセラピーに参加した子ども達

ストリートチルドレン支援事業

実施場所：サンバレス州オロンガポ市及び周辺地域

実施期間：平成26年1月～同年12月

当団体では、2005年よりストリートチルドレン・貧困地域支援、児童の権利の啓発等の活動を行っているフィリピンのNGOタタッグ(Tayo Ang Tinig At Gabay(TATAG) = 私達自身が声であり道である)と提携し、子ども達の奨学支援や貧困地域のインフラ整備、ライブリッド事業の支援を行っています。活動10年目になった本年は下記の3つの活動を実施しました。

●奨学生支援プロジェクト

今年で10年目となる本事業では、前年度に引き続き、奨学金支援を行っているNGO団体、Growing People's Will (GPW) 様からご協力をいただき、10名の奨学生(高校生：6名・小学生：4名)への奨学金

支援を実施しました。本プロジェクトでは、ワーキングチルドレンや貧困家庭の子ども達に対して、学費や制服・文房具代、交通費などの支援を行っています。GPW様からのご支援により、子ども達は継続して学校に通い、勉強することができています。なお、1名の奨学生については施設への入所が決まったため、来年

度は9名の子ども達に対して奨学支援を実施していく予定です。

また、平成23年度より開始したタタッグのストリートエドューケーター1名への奨学支援も引き続き実施しました。奨学生のマラは大学4年生に進学し、ソーシャルワークのコースで勉強しています。今年度はコミュニティでの実習活動を中心に行なったほか、卒業に必要な科目も前期までに全てとり終え、平成27年3月に大学を卒業することが確定しました。当会では、大学卒業後ソーシャルワーカーの国家試験を受け終える6月末までマラの奨学支援を行っていく予定です。

更に、前年度に引き続き、タタッグの大学奨学支援プログラムの元奨学生4名に対する特別支援も実施しました。たくさんの方々に支援をしていただき、今年3月に全員無事に大学を卒業することができました。卒業後、3名は無事に就職し、自立への道を歩み始めています。残る1名もアルバイトを継続しながら、正社員としての仕事を探し、自立に向けて頑張っています。なお、4名の卒業により、本特別支援は今年度をもって無事に終了となりました。



学用品を受け取るGPWの奨学生達



実習でインタビュー調査をしているマラ(左)



大学の卒業式を迎えたタタッグの奨学生達

●タタッグへの路上・地域活動費支援

タタッグはオランダの財団による支援が終了して以降、財政状況が厳しい状態が続いています。当団体では前年度に引き続き、今年3月までストリートエドューケーション（路上での教育活動）にかかる活動費の支援および地域での活動を担当するコミュニティオーガナイザー3名と就学前児童のための学習プログラム（Early Child Care Development(ECCD) Program）のコーディネーター1名への交通費支援、ECCDプログラムにかかる活動費の支援を行ないました。

当団体による支援により、毎週日曜日にストリートエドューケーションが実施され、毎回20~40名ほどの子ども達が参加しました。活動のあとは毎回給食が提供され、子ども達は毎回栄養のある食事を受け取ることができました。

また、コミュニティオーガナイザー達とECCDプログラムのコーディネーターへの交通費を支援したことにより、担当者が受け持ちの地域を回って各業務を遂行することができました。更に、ECCDプログラムの活動への支援として、先生達の定例ミーティングや能力強化トレーニングの実施等をサポートしました。結果として、特に先生が不足していた3つの地域のセンターで新たに3名のお母さんを先生として育成することができ、現在も子ども達に対して継続して授業を実施することができています。また、3月9日には95名の子ども達がECCDセンターを卒業することが出来ました。

なお、支援期間満了に伴い、本支援は今年3月をもって終了しました。



エドューケーション後におやつを食べる子ども達



卒業式を迎えたECCDセンターの子ども達

●コミュニティー改善プロジェクト

本事業は、タタックが支援を行っているオロンガボ市内及びその周辺地域から要請を受けた小規模のプロジェクトに対し、支援を行うものです。

今年度は下記のプロジェクトを実施しました。

【ECCDセンターの屋根修繕】

実施場所：オロンガボ市カラックラン地区

実施時期：平成26年5月

カラックラン地区のECCDセンターは築5年が過ぎ、建物の老朽化が進んでいました。特に乾季の強い日差しと雨季に続いた大雨の影響により屋根のダメージが著しく、2012年頃から教室内へ雨漏りが深刻化しました。少しの雨でも教室内に雨水が入り込んでしまうため、授業が途中で中断したり、実施できないことも多くありました。そのため、雨季は授業をスムーズに実施することができず、今年度は当地域でのプログラム実施自体が危ぶまれていました。

そんな中、学生団体YELL様にご支援をいただき、今年5月にセンターの修繕を実施することができまし

た。今回の修繕では屋根に傾斜をつけるとともに排水路の設置、老朽化した部分の張替えを行い、教室内のペンキの塗り替えも行ないました。夏休み中に全作業を終えて6月に新学期を迎え、現在、3~4歳のこども達45名がセンターに通い、勉強しています。



修繕を終えたセンターで勉強するこども達

女性のための所得向上支援事業

実施場所：マニラ首都圏マラボン市サンバレス州オロンガボ市

実施期間：平成26年1月~同年12月

当会では2009年より、こども達の生活環境をよりよくするために、母親世代を対象とした所得向上支援事業を行っています。活動6年目となった本年は下記の2つの活動を実施しました。

●オロンガボ市の女性のためのライブリフッド事業

今年度は3名のお母さんとともにレジ袋を利用してつくるバッグやポーチ、雑誌などの紙を再利用してつくるピアス等のアクセサリ、ビーチサンダルにデコレーションするデコピーサン等の商品の製作を行いました。引き続き、日本からボランティアの方に技術協力をしていただき、製作担当のお母さん達の技術も向上し、少しずつ売り上げも伸びて来ています。商品の販売先は前年度同様、当会が運営するチャリティショップのほか、ワークキャンプ・スタディツアーや東京近郊でのイベント、また大学の学園祭などでも販売していただきました。更に、今年度は国内のフェアトレード&エシカルアクセサリのブランド「Feliz」

との業務委託が決まり、来年度から本格的にFelizの商品制作を開始する予定です。



商品制作のトレーニングを受けるお母さん

●マラボンの女性のためのライブリフッド事業

2009年に開始した本事業は、こどもたちが健全に成長できる家庭環境をつくるため、また街の美化を目的に行っています。お菓子の袋を再利用した製品「エコミスモ」をフィリピンで製作し、日本で販売を行うことで、製作者であり、母親でもある女性達に適切な賃金が支払われています。現在では約10名の女性が製作に携わっています。

今年度は、プロのスタイリストであるTATSUO様のご協力のもと、全商品のリニューアルに取り掛かり、来年度にはリニューアル商品の発売を行う予定です。

リニューアル後の商品案



チカラプロジェクト

実施場所:サンバレス州オロンガポ市・パンパンガ州、ブラカン州、バタアン州、カステリヤホス行政区

実施期間 ハサミノチカラ：平成26年1月~同年12月

実施期間 カラテ・ダンスノチカラ：平成26年4月~同年12月

本事業は施設や路上で働くこども達が社会に出て自立していくためのサポートを目指した事業です。

●チカラプロジェクト

本事業は施設や路上で働くこども達が社会に出て自立していくためのサポートを目指した事業です。今年度はオロンガポ市の中心地にある商業ビルへのオロンガポ事務所移転に伴い、事務所に併設してチカラプロジェクトスタジオを開設し、ハサミノチカラを始め、カラテノチカラの空手稽古、ダンスノチカラのダンスレッスンを4月から開始しました。

【ハサミノチカラ】

本年度も日本の美容師の皆様の協力を得て、ハサミノチカラを実施致しました。今年度は全体のヘアカットトレーニングを3回、地域毎に分けたサテライトトレーニングをオロンガポグループは3回、パンパンガグループは2回実施しました。また、フィリピンのヘアトレーナーであるジュード様とローズ様が経営しているヘアサロンにてトレーニングをし、11月21日のアクション20周年記念でのお披露目するヘアショーに向け、準備をしました。来年5月からは新しいこども達を迎え入れ、より多くのこども達の自立支援を計画しています。

【ダンスノチカラ・カラテノチカラ】

ダンスノチカラとカラテノチカラはそれぞれ、インストラクター1人、指導補佐1人の指導のもと、レッスンと稽古を実施し、4、5月には夏期練習を実施しました。夏期練習ではオロンガポ市近郊にある4施設のこども達約100名に向けて、各施設で週3回ずつ練習を実施しました。6月上旬にはチカラリサイタルと称した発表会を行い、2ヶ月間習った成果を披露する事ができました。6月以降はこども達が学校で忙しいため、空手・ダンスのインストラクターを各施設に送る形をとり、継続してレッスンと稽古に励んでいます。現在は、オロンガポ市・サンバレス州にある6つの施設・団体から約140名のこども達が参加しています。また、11月21日はアクション創立20周年記念イベントとして、こども達が空手の演舞、2・3曲習ったダンスを約披露しました。



【フットサルノチカラ】

8月から亜細亜大学ボランティアセンター様のご寄付で、オロンガポ市近郊あるストリートチルドレンを中心に構成されたフットサルチームのドラゴンボールキッカーズへの、ランチプログラムが開始されました。このチームに所属している子ども達は、フットサルの練習に来る代わりに教育支援を受けることができます。ストリートで働く子ども達にとって教育はとても大事ですが、練習後の空腹に耐えられず、練習に来

られなくなってしまう子どももいるため、1人40ペソの食事を計37名の子ども達に提供しました。



JICA草の根パートナー事業

実施場所：中部ルソン地方全域（オーロラ州を除く）

実施期間：平成26年1月～同年12月

本事業は「フィリピン・中部ルソン地域における児童養護施設の子ども達の健全育成と自立のための施設職員能力強化プロジェクト」として、日本国際協力機構（JICA）より委託を受けて2012年10月より開始した3ヶ年の事業です。

●フィリピン・中部ルソン地域における児童養護施設の子ども達の健全育成と自立のための施設職員能力強化プロジェクト

本事業は中部ルソン地方全域にある児童養護施設を対象にして、施設職員であるソーシャルワーカー・ハウスペアレント（こどもの日々のケアに直接関わる施設職員）向けの研修プログラムを開発し、実施するというものです。また、本事業ではフィリピンの政府機関である社会福祉開発省（DSWD）第三地域事務所が当団体のカウンターパート機関となり、協働で実施しています。

事業2年目となった今年度は、昨年度本事業を通じて作成され、DSWD第三地域事務所によって認可を受けた「ハウスペアレントの基準」を用いて、研修プログラムの作成に着手しました。2月と3月に社会福祉開発省（DSWD）第三地域事務所オフィサー・職員及び当会スタッフのためのトレーニングマネジメントおよびモジュール開発に関する能力向上研修を実施し、本研修を通じて、ソーシャルワーカーとハウスペアレント向けの研修マニュアル・教材の開発を行いました。4月末までにマニュアル・教材の開発を終え、研修プログラムが5月5日に完成披露式を実施しました。完成披露式は本事業のカウンターパートはもちろん、施設関係者や関連セクターへも参加を呼びかけ、事業の成果を共有しました。続けて5月6日～9日にはソーシャルワーカー向けのマスタートレーナー研修を実施

しました。本研修はハウスペアレント向けの研修を実施するための能力強化を目的として実施され、39名のソーシャルワーカーが参加し、研修を修了しました。5月下旬からはハウスペアレント向けの研修がクラスター毎に実施され、96名のハウスペアレントが研修を修了しました。12月3日には全クラスターのソーシャルワーカー・ハウスペアレントが集合し、全体での修了式を行ないました。式中には、各クラスターから代表の施設長・ソーシャルワーカー・ハウスペアレントが研修で得た学びや成果を共有しました。

また、各クラスターでは組織力の強化を目指した活動も実施し、中心メンバーとなるスタッフとのミーティングやチームビルディングなどの活動を実施しました。

カウンターパートであるDSWD第三地域事務所の担当職員との定例会議も継続して実施され、事業の進捗状況の確認や課題の共有、課題の解決に向けた話し合い等を行ないました。来年度もDSWD第三地域事務所とともに本事業を実施し、9月末に事業を終了予定です。



修了証書を受け取る参加者たち

国際ボランティア体験事業

当会では国際協力やフィリピンの現状、こども達を取り巻く環境をより多くの市民のみなさまに知っていただく為に、団体設立翌年の1995年から国際ボランティア体験事業を実施しています。本年度は66名の方が全国からプログラムに参加してくださいました。

本年度も、前年度に比べ参加者数が減少傾向にありますが、例年に比べ高校生の参加者が多く見られました。また、企業から社員研修の一環としてプログラムに参加される方もおり、参加者層や参加する目的は、以前より幅広くなってきています。当会では、参加者数の増加を図ると共に、多様化する参加者層、参加目的に応じたプログラムの実施を目指し、プログラム内容の改変・改善に努めています。

●平成26年度開催プログラム一覧

ジャイラホームワークキャンプ

- ①平成26年3月10日～3月19日 7人
- ②平成26年3月20日～3月29日 6人
- ③平成26年8月7日～8月16日 9人
- ④平成26年9月10日～9月19日 9人

本年度は、計4回ワークキャンプを実施しました。前年度の参加者数を参考に、本年度は20日間の長期プログラムを廃止し、全ての日程を10日間のプログラムに統一しました。それに伴い、10日間という短い期間でも、参加者とこども達が良い関係を築き、双方にとってキャンプ期間が充実した時間となるよう、プログラム内容の変更を試みました。

自己紹介アクティビティの実施や、こども達が普段から取り組んでいる朝の当番活動を、参加者も一緒に担当するなど、こども達と参加者が交流する機会を増やしたほか、当団体の心理ケア担当スタッフから、こども達についてのレクチャーを行い、こども達の施設入所の経緯や背景、現在抱えている様々な課題について学ぶ時間を新たに設けました。

さらに、これまで施設の建設や修繕作業といったハードワークを中心に実施してきたボランティアワークも内容を見直し、本年度はこども達の食事作りなど、こども達に直接関わる内容のワークを実施しました。

また、以前から実施していたホームステイプログラムは、本年度はタタッグが支援する貧困地域で実施し、参加者にとって、一般家庭での生活を体験すると共に、こども達が施設に入所してくる前の環境や、貧困について改めて考える機会となりました。

入所しているこども達の年齢が上がり、思春期を迎えているこども達も多くいる中で、こども達の心理ケアや大人との関係作りは、今後ますます重要となっていきます。そうしたこども達の変化にも対応しながら、今後もプログラムを継続していきたいと思えます。



こども達に手作りの昼食をふるまう参加者



参加者とこども達

●ストリートチルドレンワークキャンプ

- ①平成26年3月10日～3月19日 10人
- ②平成26年8月19日～8月28日 8人
- ③平成26年9月1日～9月10日 9人

本年度は、10日間のプログラムを計3回実施しました。前年度に比べ、各日程安定した参加者数を得られるようになり、ストリートチルドレンや途上国の貧困問題に関心のある高校生～社会人まで幅広い年齢層の参加者が集まりました。

本プログラムでは「ストリートチルドレン」「貧困」をテーマにプログラムを実施しており、参加者はタタッグが運営するストリートエデュケーション(路上での教育活動)に参加したり、ストリートチルドレンと意見や考えを共有するワークショップ等に取り組みました。また、タタッグが支援する貧困地域での8日間のホームステイプログラムや、ゴミ拾いをして生計を立てている方が多く暮らす地域への訪問を通じて、貧

困が引き起こす課題や現状、こども達が路上に働きに出てくる背景を、より身近により深く理解しました。

交流活動・一般家庭での生活体験・学びの要素がうまく合わさり、参加者にとってフィリピンでの10日間は、新たな視点や価値観に触れる機会となりました。



ストリートエデュケーションでの参加者とこども達



貧困地域を訪問、ローソクの灯りで食事をする



ワークショップに取り組む参加者とこども達

●スタディツアー

- ① 平成26年2月20日～2月24日 4名
- ② 平成26年3月20日～3月24日 4名

本年度は春季に2回ツアーを実施し、昨年度に引き続き、代表の横田がツアーの引率を担当しました。

各事業地訪問やマニラでのホームステイ、エコミスト製作体験、代表による特別講義のほか、本年度は完成前のチカラスタジオの見学も行ないました。

スタディツアーはワークキャンプと違い、短期間で参加できるため、社会人の参加が多いプログラムとなっています。今後も学生だけでなく、幅広い年齢層・業種の方に参加していただけるプログラムづくりを目指します。



ジャイラホーム訪問時の様子

●オーダーメイドスタディツアー・研修ツアー

当会主催のプログラムだけでなく、学生団体や企業・有志のグループ向けにオーダーメイドのスタディツアーや研修ツアーを実施しました。本年度は下記5団体のツアーを実施しました。(敬称略)

- ・学生団体V.I.C
- ・学生団体YELL
- ・明星大学BUKAS
- ・亜細亜大学ボランティアセンター
- ・日本化学エネルギー産業労働組合連合会(JEC連合)

今後も積極的に、オーダーメイドスタディツアーや研修ツアーの受け入れを行なっていく予定です。

国内事業

●チャリティショップ sari sari

オープンから8年目を迎えたチャリティショップですが、日本事務局の有効活用のために大幅なリニューアルを行いました。来年度からは「事務局」「エコミスモ直営店」「ボランティアスペース」の3つの機能を柱として、日本事務局の立て直しを行っていきます。そのため、sari sariのスペースは縮小し、3月末を目途にアジア雑貨のチャリティショップsari sariではなく、エコミスモ直営店として生まれ変わります。在庫があるアジア雑貨は今後はイベント時のみ販売する予定です。



改装後の店内

●「土曜学校世界を知る会（小4～6年コース）」

本講座は2005年以降継続して委託を受けて実施しています。今年度は武蔵野市内の小学校に通う4年生～6年生、計24名が参加し全8回の講座を行いました。講座ではゲストティーチャーを招き、フィリピンを始め諸外国の文化を学びましたが、例年同様、フィリピンの小学生と1対1でパートナーを組み、文通やビデオレターでの交流も行いました。また、最終回にはリアルタイムでパートナーと交流をしました。この最終回では、前年度まではJICAネットを利用して交流を行っていましたが、今年度からskypeを利用しての交流となり、フィリピンの子ども達はオロンガポにあるアクションのチカラストudioから参加しました。JICAネットを利用していた時は、フィリピンの子ども達はマニラまで遠征しなければならず時間がかかったため、子ども達の負担も減りました。画質は少し劣るものの、音声などの通信には問題がなく、スムーズな交流を行うことができたため、来年度もskypeでの交流を予定しています。



skype交流でのお別れの時

●学校教育との協働授業実践及び講師派遣

本年度は以下の学校で協働授業を実践しました。各学校にあわせた内容の授業を実施し、文通やビデオレターの交換を行いました。

筑波大付属小学校
武蔵野市立第一中学校
亜細亜大学
他

●国際協力・交流イベント及び地域イベントへの参加

4月19日（土）アースデイ東京
4月20日（日）アースデイ東京
5月18日（日）武蔵境ピクニック
5月24日（土）メトロポリタンロックフェスティバル
5月25日（日）メトロポリタンロックフェスティバル
6月 1日（日）さかいマルシェ
7月20日（日）さかいマルシェ
7月26日（土）どぶ板バザー
7月27日（日）どぶ板バザー
8月 3日（日）さかいマルシェ
9月 7日（日）さかいマルシェ
9月11日（木）connection party
10月 4日（土）グローバルフェスタ
10月 5日（日）グローバルフェスタ
10月12日（日）さかいマルシェ
10月19日（日）むさしの環境フェスタ
11月 2日（日）さかいマルシェ
11月25日（火）COMPLEX